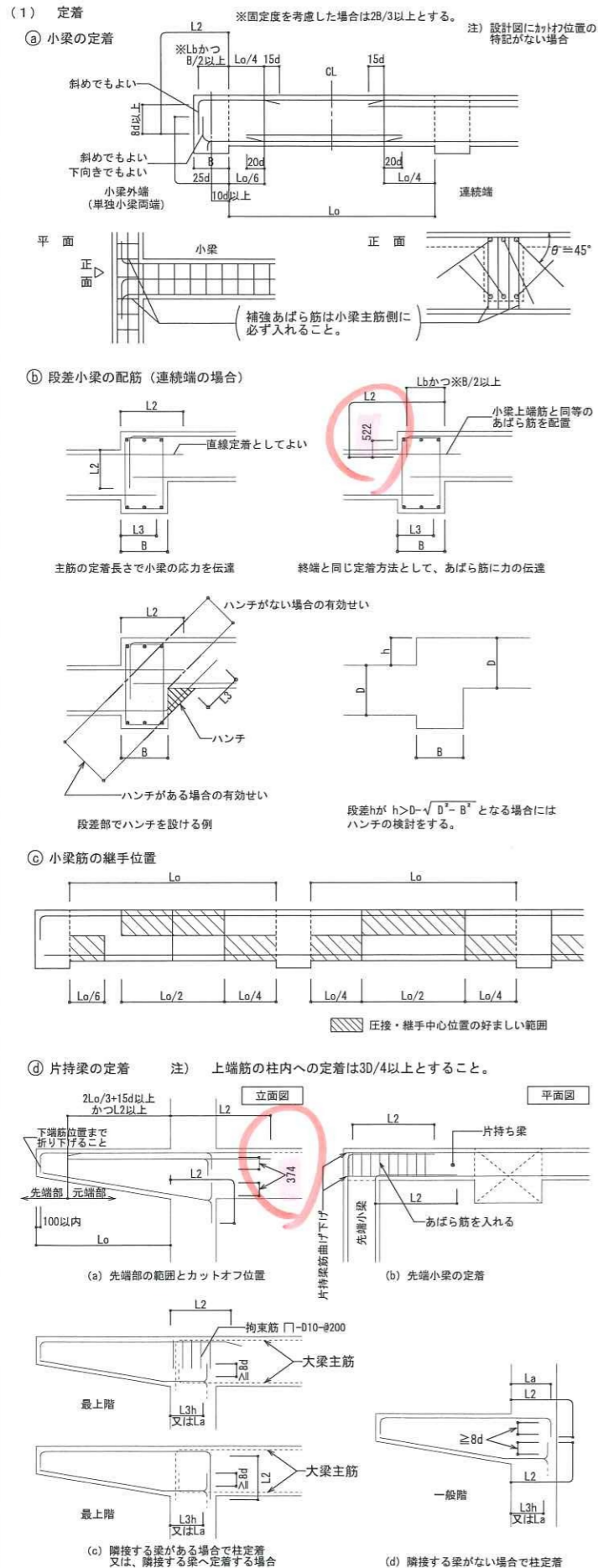
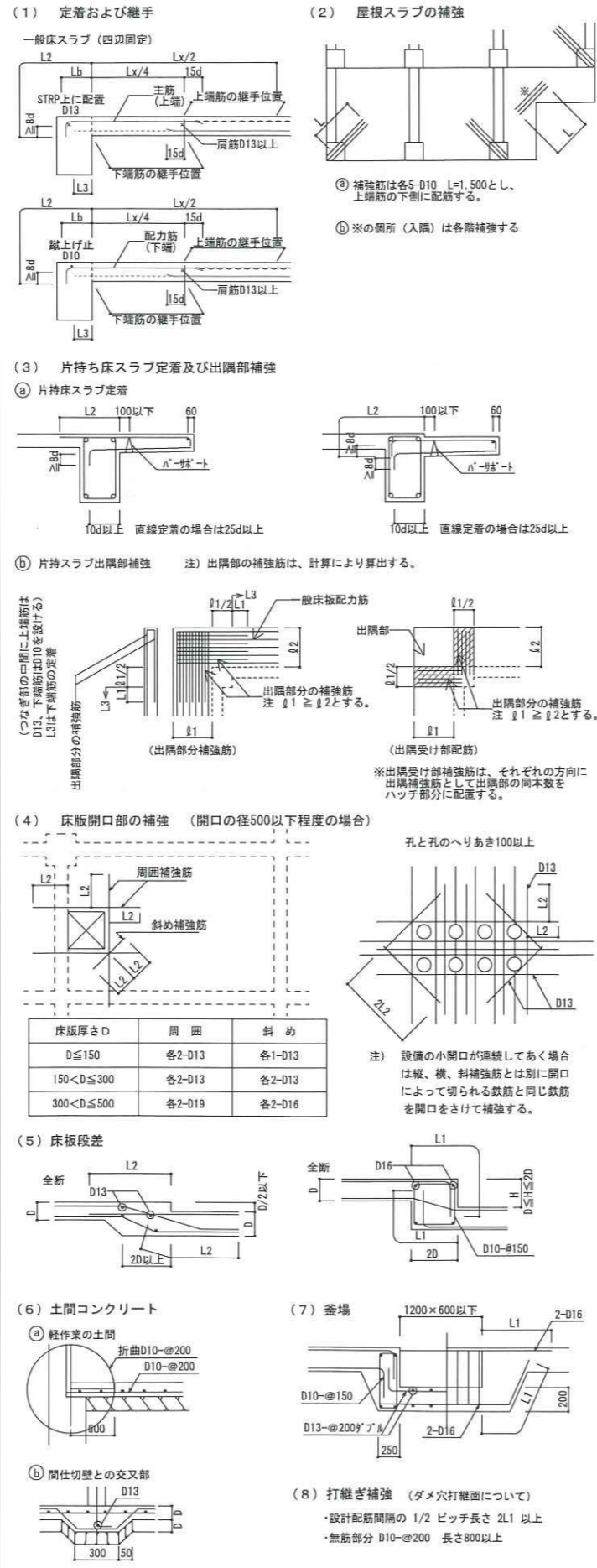


鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)

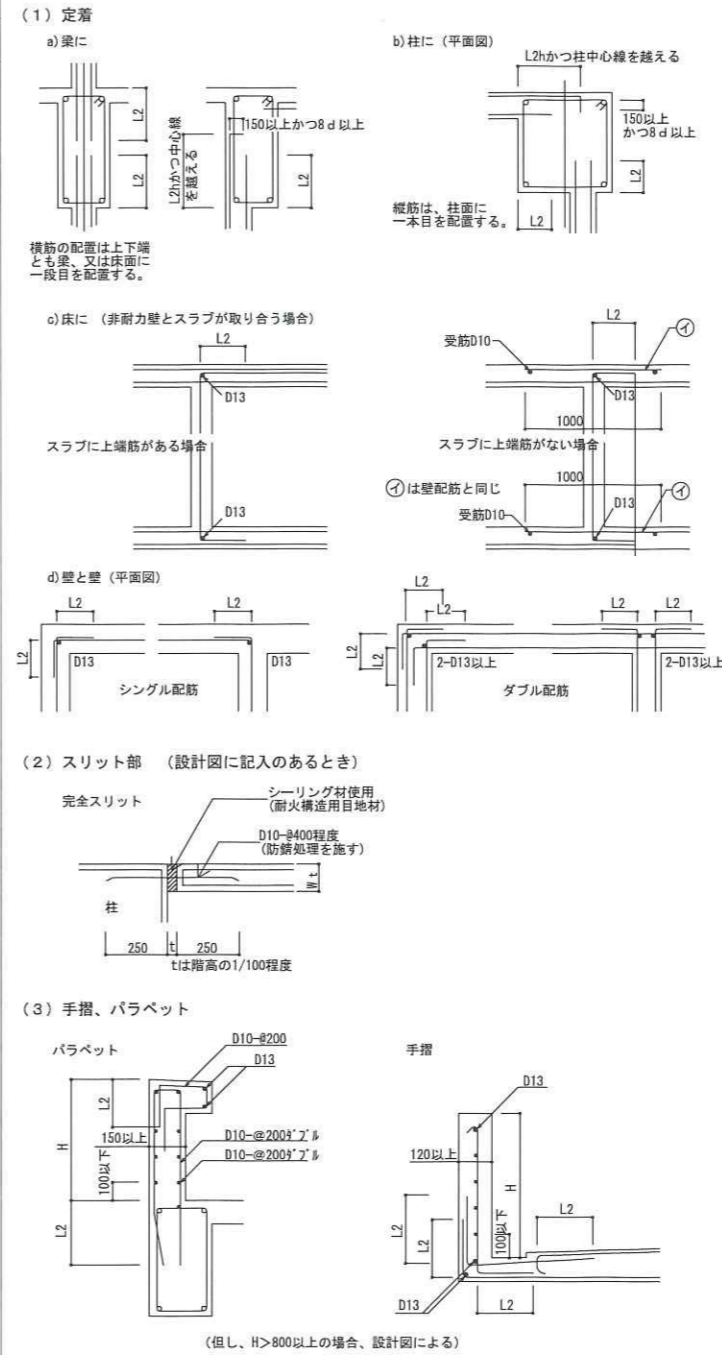
7. 小梁、片持梁



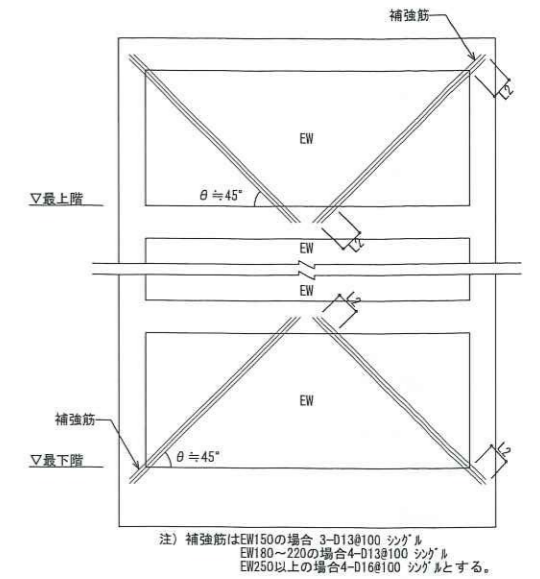
8. 床版



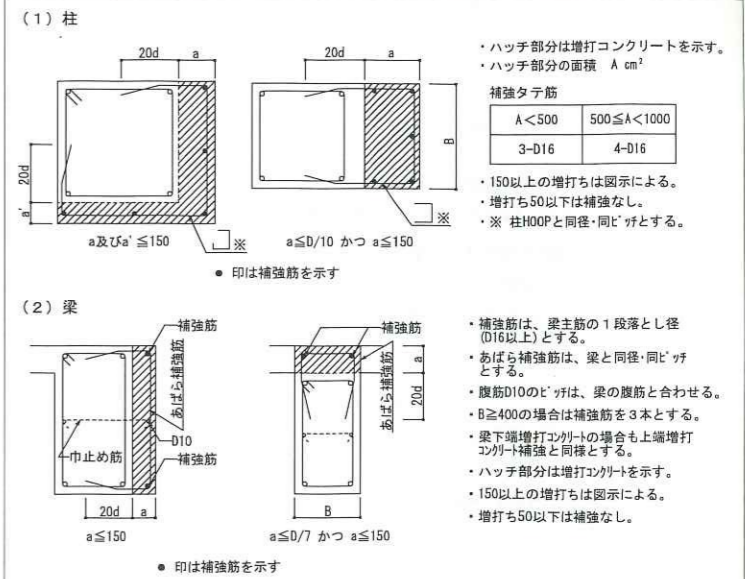
9. 壁



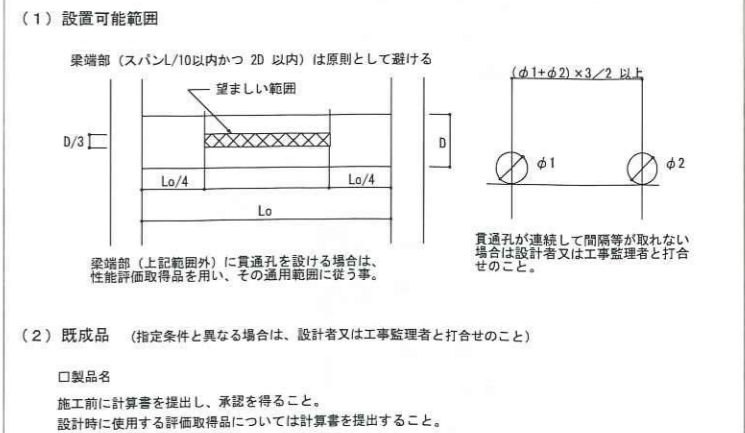
(6) 連層耐震壁乾燥収縮の補強筋

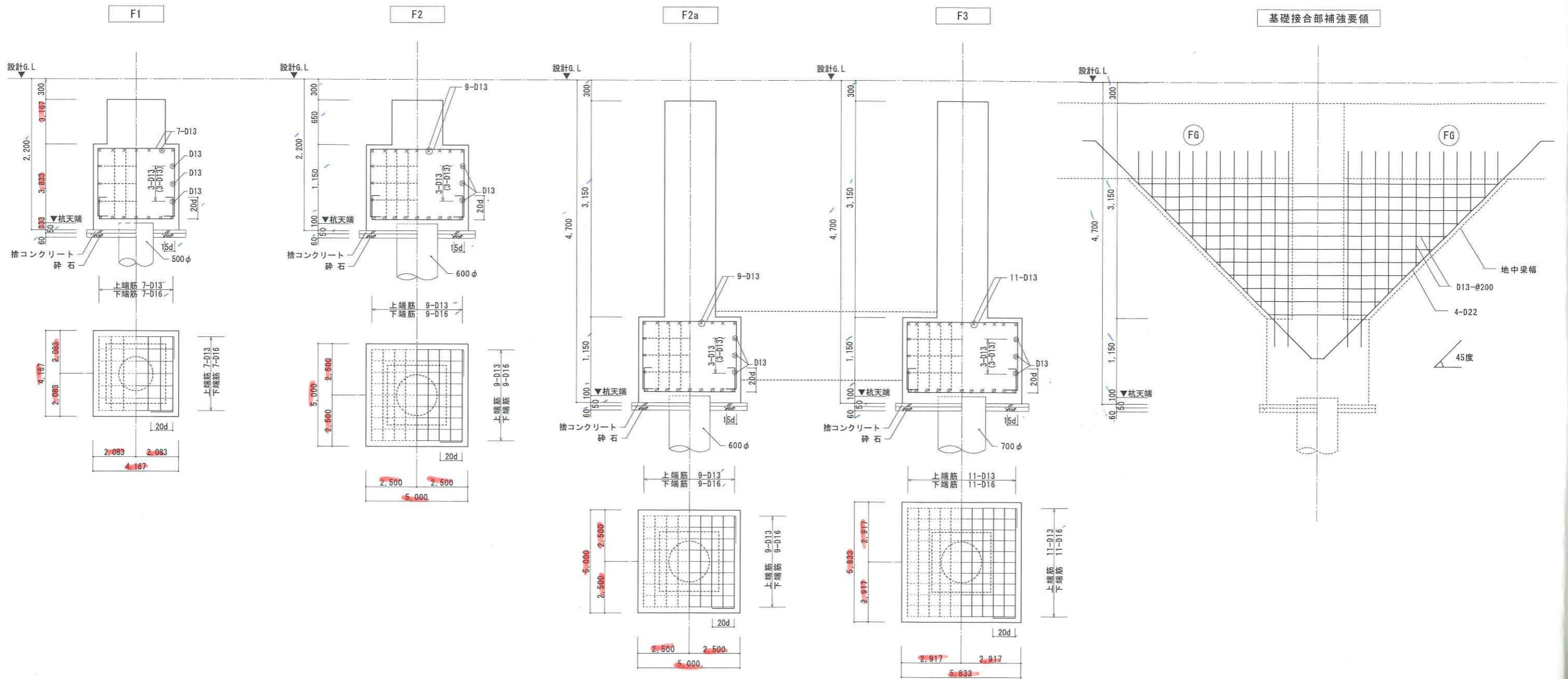


10. 柱、梁増し打ちコンクリート補強 (増し打ちするときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと。)



11. 梁貫通孔補強 (開口補強筋については計算により確認すること)



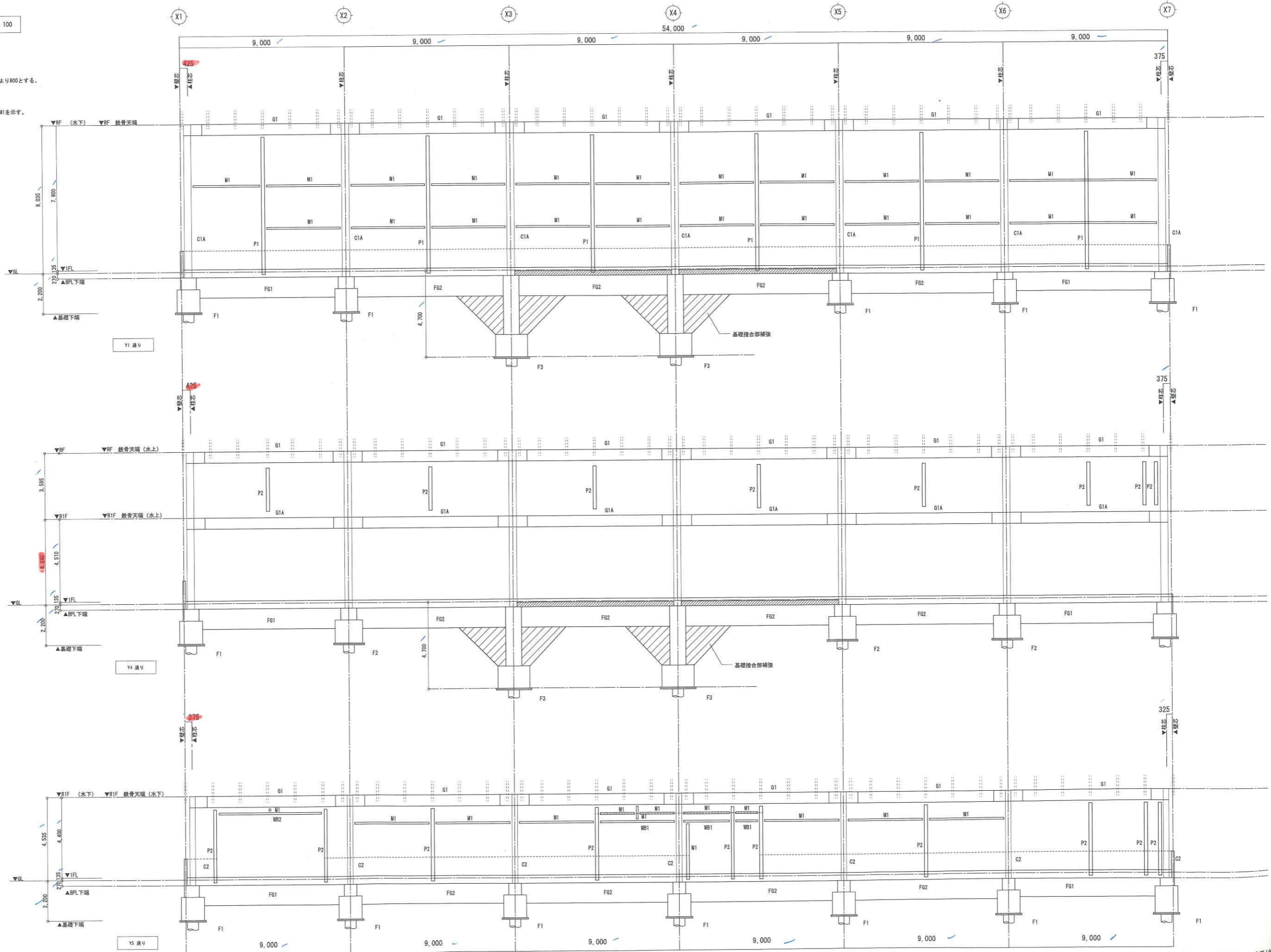


柱型リスト S=1/30

符号	G1	G1A	G2	G21
断面				
主筋	16-D25	16-D25	12-D25	16-D25
帯筋	□-D13-@100	□-D13-@100	□-D13-@100	□-D13-@100
備考				

軸組図 (1) S=1:100

- 特記事項
1. 特記なき柱は、C1とする。
 2. 特記なき梁継ぎ手位置は、柱芯より800とする。
 3. 地中梁天端はG1-300とする。
 4. 斜線印は、増し打ちを示す。
 5. 点線印は、バラベツト下地 M1を示す。



A3版 1/200

一級建築士 第278561号 佐藤 時彦 構造設計 1級建築士 登録第197254号
 構造設計 1級建築士 登録第535号

近 建築設計事務所
 秋田県横手市十文字町四丁目一丁目 TEL. 0182 (42) 1288 (代)
 一級建築士 登録第206990号 関 圭司

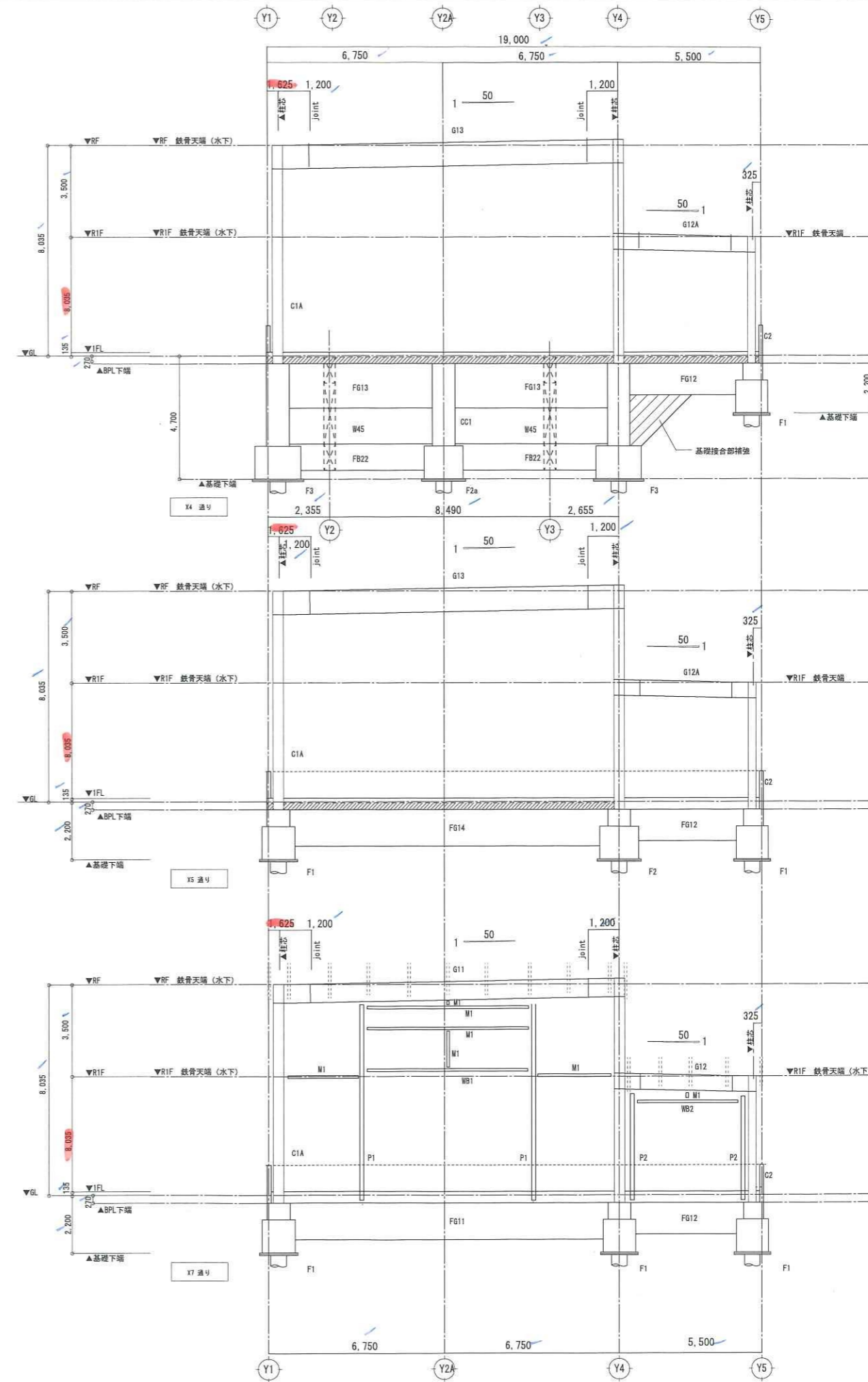
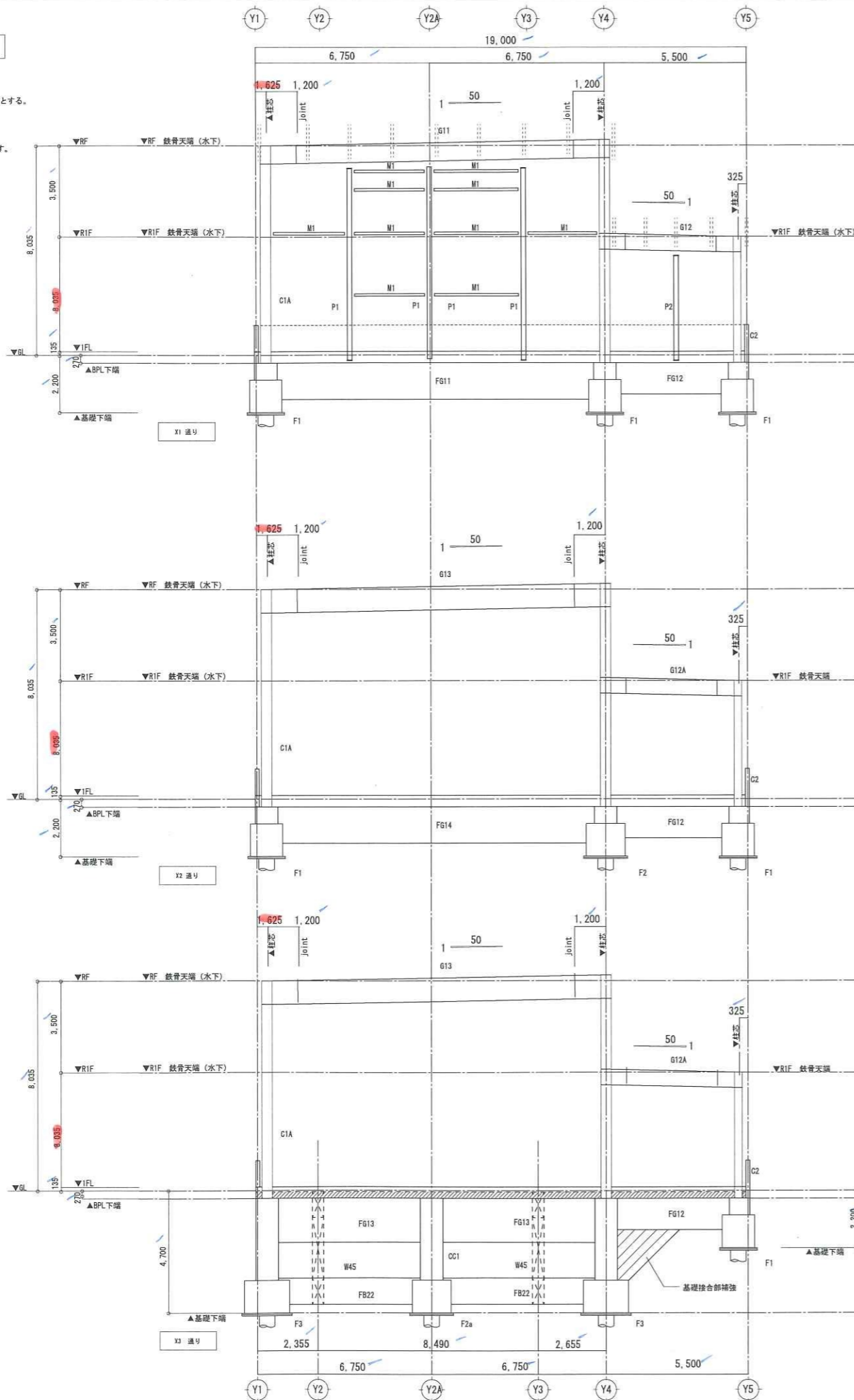
工事名 横手市ペットボトル等処理施設整備事業
 ペットボトル等処理施設建設工事
 (建築本体工事)

縮尺 1/100

軸組図 (1)

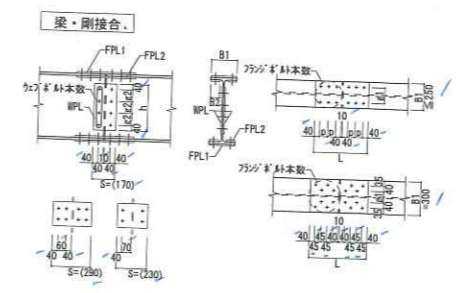
特記事項

1. 特記なき柱は、C1とする。
2. 特記なき梁継ぎ手位置は、柱芯より800とする。
3. 地中梁天端はGL-300とする。
4. 印は、増し打ちを示す。
5. 印は、バラベツ下地 M1を示す。



鉄骨部材リスト 1. 特記なき材質はSN4008とする。 2. 特記なき高力ボルトはS10Tとする。 3. 継手は SCSS-H97 による。

記号	位置	部材	剛接合			ゲージ、ピッチ			備考		
			ボルト本数	フランジ	ウェブ	F, E-1 (t × B1 × L)	F, E-2 (t × B2 × L)	継手添板		g1	g2
G1	全断面	H-500 × 200 × 10 × 16	6-M20	5-M20	12 × 200 × 410	12 × 80 × 410	9 × 320 × 170	120	60	60	
	全断面										
	全断面										
G11	全断面	H-700 × 300 × 13 × 24	12-M20	9-M20	19 × 300 × 620	19 × 110 × 620	9 × 560 × 170	150	60	60	
G12	全断面	H-500 × 200 × 10 × 16	6-M20	5-M20	12 × 200 × 410	12 × 80 × 410	9 × 170 × 320	120	60	60	
G13	全断面	H-900 × 300 × 16 × 28	14-M20	2 × 8-M20	19 × 300 × 710	22 × 110 × 710	16 × 710 × 290	150	90	60	
G1A	端部	BH-500 × 200 × 12 × 19	6-M20	6-M20	16 × 200 × 410	12 × 80 × 410	12 × 170 × 380	120	60	60	
	中央	H-500 × 200 × 10 × 16									
G12A	Y4端	BH-500 × 200 × 12 × 19	6-M20	5-M20	12 × 200 × 410	12 × 80 × 410	9 × 170 × 320	120	60	60	
	中央他端	H-500 × 200 × 10 × 16	6-M20	5-M20	12 × 200 × 410	12 × 80 × 410	9 × 170 × 320	120	60	60	



鉄骨小梁ピン接合リスト S=1/30 1. 特記なき材質はSS400とする。 2. 特記なき高力ボルトはS10Tとする。 3. 梁天端は原寸により確認すること。

梁符号	B50	B25	B244	S	b
部材	H-500 × 200 × 10 × 16	H-250 × 125 × 6 × 9	H-244 × 175 × 7 × 11	H-250 × 125 × 6 × 9	[-100 × 50 × 5 × 7.5]
断面					
梁符号					
部材					
断面					

柱番号	C1 C1A	C2	P1	P2
部材	□-400×400×16 (BCR295)	□-300×300×12 (BCR295)	H-244×175×7X11 (SS400)	H-248×124×5X8 (SS400)
柱脚				
BASE PL	—	—	B.PL-16 (SS400)	B.PL-16 (SS400)
A.BOLT	—	—	4-M16 (SS400) L=500	4-M16 (SS400) L=500
備考	△-△の柱脚工法 仕様書参照 (40-16R)	△-△の柱脚工法 仕様書参照 (30-12V)	ダブルナット締め	ダブルナット締め

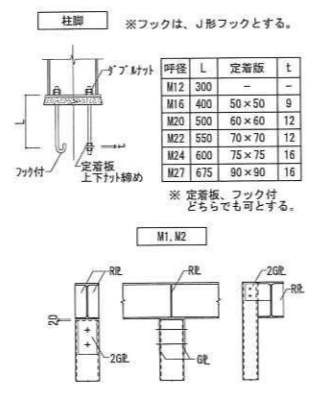
柱番号	M1
部材	□-100×100×2.3 (STKR400)
柱脚	
BASE PL	B.PL-9 (SS400)
R.PL	—
A.BOLT	2-M12 (SS400) L=500
備考	—

柱番号	M1
部材	□-100×100×2.3 (STKR400)
柱脚	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>開口部</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>バラベツト</p> </div> </div> <p>#150以内にてボルト(M12)を配置する</p>
BASE PL	—
A.BOLT	—
備考	—

その他リスト 1. 特記なき高力ボルトはS10Tとする。

記号	部材	ピン接合		備考	
		ボルト本数	G.R. R.R.		
屋根・床	屋根	デッキプレート		0L99-50-1.2 コンクリート(Fc=21) 山上80 6φ-150×150	
壁	WB1	H-244×175×7×11	2-M20	9 横使い SS400	
	WB2	H-248×124×5×8	2-M20	9 横使い SS400	
	b	[-100×50×5×7.5	2-M16	6 SS400	
	M1	□-100×100×2.3	中ボルト 2-M12	2×4.5 STKR400	

※ 形損に取付く鋼板の材質	
BCR295 柱のゲージPL (通し、内共)	SM490C
BCR295 柱の△-△PL	SM490B
その他	SS400



浅層混合処理工法地業特記仕様書

1. 工事概要

本作業は、EIM工法による地盤改良地業である。EIM工法は、セメント系固着材を粉体のまま地盤に敷き均し、ミキシングフォーク又はスケルトンバケットを装着したバックホーにより原地盤土を機械的に混合攪拌し、固着材の固化反応により所定の強度を持つ改良体を製造するものである。

2. 一般事項

本作業は、本特記仕様書によるほか「2018年度 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」（日本建築センター、以下指針という）による。

3. 特記事項

- 改良範囲・改良厚さ・改良土量・固着材配合量は設計図書による。但し、土質・地盤の状況や障害物等により変更した方が適切だと判断される場合は、監督員の承認の下に変更することができる。
- 改良体の設計基準強度は $F_c = 90 \text{ kN/m}^2$ とする。
- 設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理及び品質検査を実施する。
- 本工法は、過去に官公庁の施工実績が十分にあり、本工法に精通した業者が施工するものとし、汎用バックホーのバケットでの攪拌は禁止とする。

4. 施工計画

- 本工事施工業者は、施工前に施工計画書を作成する。
- 施工計画書は、次の事項を明記する。

a. 工事内容（改良範囲、改良厚さ、固着材配合量、設計基準強度）	f. 品質管理の方法
b. 工事期間及び工程	g. 安全対策
c. 工事要領（使用固着材、区割り、施工手順）	
d. 施工機等	
e. 施工管理の方法	

5. 施工

- 作業地盤は、施工機が傾斜・転倒しないように養生する。
- 施工手順は、施工計画書による。
- 本工事により排出される発生廃土は、場内処分とする。
- 施工に対して疑義が生じた場合は、ただちに監督員と協議し、その指示を受ける。

6. 配合管理

- 使用する固着材は、六価クロム抑制型セメント系固着材を使用する。
- 現場目標強度（ q_{uf} ）
現場施工において改良地盤の強度のバラツキを考慮し、現場目標強度を定める。
 $q_{uf} = F_c / (1 - m \cdot V)$
 q_{uf} : 現場目標強度
 F_c : 設計基準強度
 m : 係数 (1.3)
 V : 変動係数 (0.2~0.45)
 （施工実績により任意に設定できるが中間値の0.35とする）
- 室内配合試験
施工前、現地土を採取し室内配合試験を実施する。
室内配合目標強度（ q_{ui} ）
 $q_{ui} = q_{uf} / d_1$
 q_{ui} : 室内配合目標強度
 d_1 : 現場/室内 強さ比 (0.5)
- 試験対象土は、砂質シルト層とする。
- 設計配合は室内配合試験の結果により変更される場合がある。

7. 品質検査

- 検査ヶ所（コア採取ヶ所数）
- モールドコア : 2ヶ所
 - 採取1ヶ所当たり3個の供試体を採取する。
 - 一軸圧縮試験は、28日材令の圧縮試験とする。
 - 合格の判定は、圧縮試験の平均値が、 q_{uf} を満足した場合を合格とする。

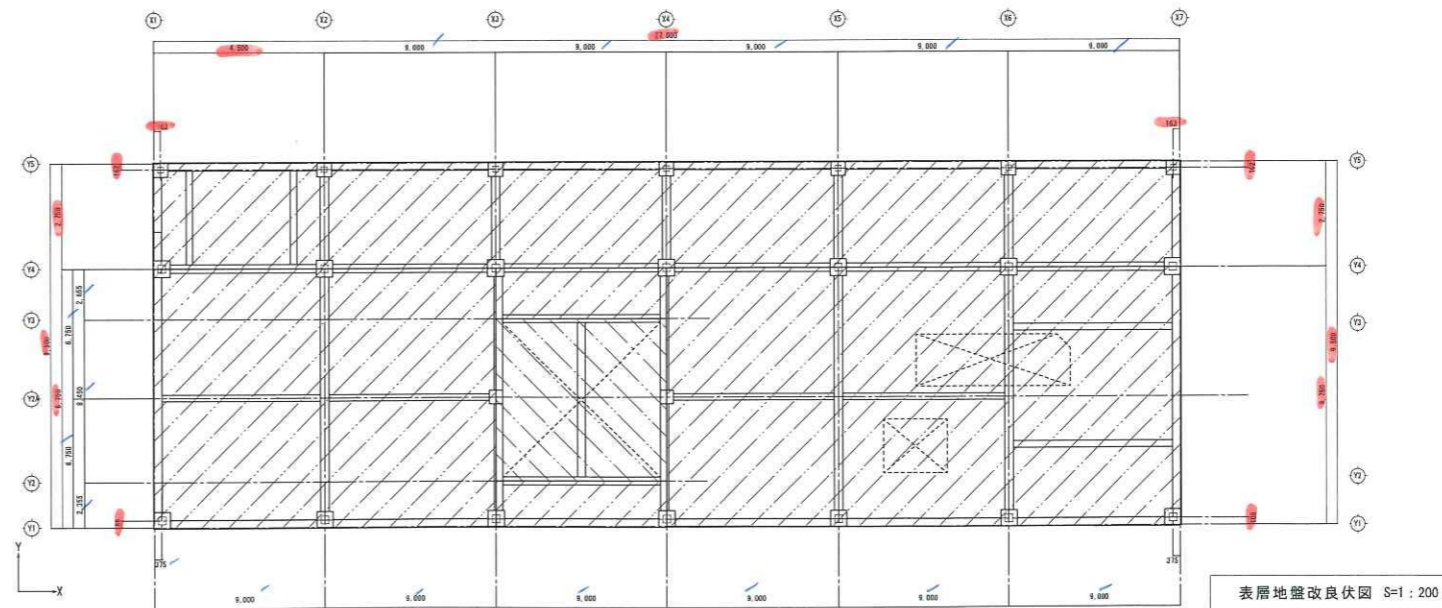
8. 報告

工事完了後、次の項目について報告書をまとめ、3部監督員に提出する。

- 施工規模概要
- 改良範囲の区割り
- 施工手順
- 固着材の出荷証明書および試験成績表
- 圧縮試験結果
- 施工写真

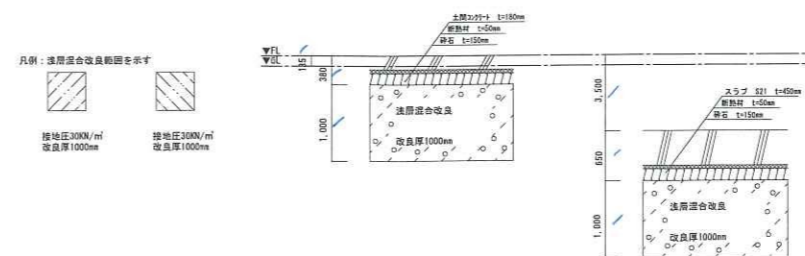
9. その他

配合試験後、供試体で六価クロム溶出試験を実施し、環境庁告示第46号の基準値（検液1Lにつき0.05mg以下であること）を満足する事を確認する。



表層地盤改良伏図 S=1:200

表層地盤改良断面図 S=1:50



A3版 1/-

一般建築士 第278561号 佐藤 時彦

構造担当 1級建築士 登録第197254号
 構造設計 1級建築士 登録第535号 藤木 肇